産業集積が進む北関東の生産・輸出拠点として発展する常陸那珂港区

― 企業立地件数（H26）　全国1位：茨城県　2位：群馬県　7位：栃木県 ―

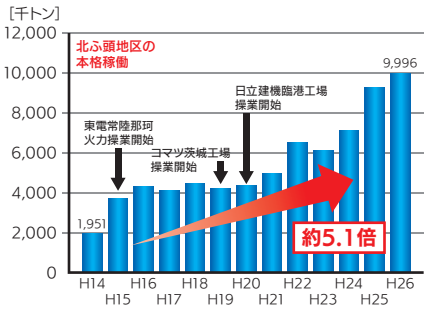
○射爆撃場跡地を港湾・公園・都市ゾーンに分け開発を進め、首都圏の新たなゲートウェイ（東京湾外の港）として平成10年に供用開始（内貿バース）
○その後、世界有数の建設機械メーカーが港湾背後に立地、建設機械の生産・輸出拠点として発展、平成23年には北関東自動車道が全線開通
○現在は国際コンテナ・RORO15航路及び北海道等への国内RORO2航路が就航し、最新鋭の国際海上ターミナルを有する国際港湾として発展

◆茨城港常陸那珂港区の整備により

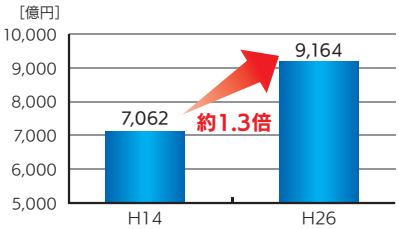
- 背後地に大手建設機械メーカー2社が**1,300億円を投資**し、生産拠点を整備、**2千人の雇用**を創出。
- 平成23年に全線開通した北関東自動車道と直結していることから、北関東の生産拠点から都心の交通渋滞を避けて港まで1日**複数回陸送が可能**となり、物流の効率化や**ドライバー不足への対応、CO_2の削減等の効果**が期待できるほか、首都直下地震の発生等に備え、**サプライチェーンの強靭化につながること**も期待される。

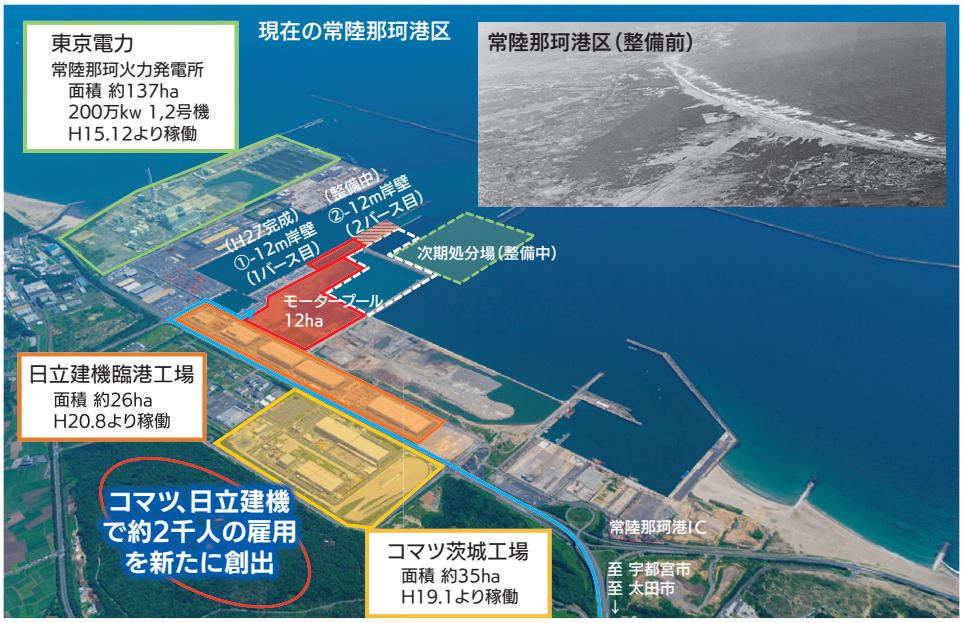
○産業集積が進む北関東道沿線からダイレクトに海外・国内各地へ

常陸那珂港区の取扱貨物量の推移



常陸那珂港区の製造品出荷額等の推移
（ひたちなか市＋東海村）





生産・輸出の拠点、常陸那珂臨港工場

建設機械の生産・輸出の拠点が茨城港常陸那珂港区に誕生したことで、従来の「土浦→横浜」への陸路に比べ、物流のコストは約35パーセント程度削減できるようになりました。「土浦→ひたちなか」の陸路はコスト削減ばかりでなく、作業時間の短縮や排ガスの減少にもつながっています。また、常陸那珂臨港工場からは直接、製品を船に積み込めるという利点もあり、製品の分解・組立作業の効率化も図れています。

港の利便性向上への期待は大きい。今後は、国際競争力強化のためにも、港に大型のクレーンが設置されることを期待しています。

日立建機㈱
生産・調達本部副本部長
飯野　昌司氏

▲大型建機が工場から直接積み込みが可能